

※ 未提出者への督促後に新たに提出（入力）されたレポートも含めた集計結果です

設問 1（授業科目名・クラス名）

設問 2（科目コード）

設問 3（回答者名）

※ 以下、各選択肢の右に該当クラス数を記す。（全回答数に対する回答率も附記）

A（問 4～13）：授業担当者として教授技法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し、次の①～④のうち該当する丸数字を選んでください。 ①:あてはまる ②:ややあてはまる ③:あまりあてはまらない ④:あてはまらない

設問 4 シラバスに沿って授業を行えた。

①:18 (86%) ②:2 (10%) ③:1 (5%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問 5 学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

①:13 (62%) ②:7 (33%) ③:1 (5%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問 6 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

①:15 (71%) ②:6 (29%) ③:0 (0%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問 7 重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

①:13 (62%) ②:8 (38%) ③:0 (0%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問 8 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立てたり満足させる教え方ができた。

①:15 (71%) ②:6 (29%) ③:0 (0%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問 9 受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

①:17 (81%) ②:4 (19%) ③:0 (0%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問 10 受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた/学生からの質問・発言を促した/学生の理解度を確かめながら進めた

/学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した 等）

①:17 (81%) ②:3 (14%) ③:0 (0%) ④:0 (0%) 未回答:1 (5%)

設問 11 授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

①:8 (38%) ②:10 (48%) ③:3 (14%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問 12 総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

①:14 (67%) ②:7 (33%) ③:0 (0%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問 13 シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

①:17 (81%) ②:2 (10%) ③:1 (5%) ④:0 (0%) 未回答:1 (5%)

**B（問14～18）：FD 活動についてお尋ねします。**

設問 14 この授業科目に関してこの1年間取り組んだFD 活動を選んでください。（複数回答可）

- ①他教員の授業参観： 5（24%）
  - ②学内外のFD 講演会等への参加： 7（33%）
  - ③他大学のFD 活動の視察： 0（0%）
  - ④その他： 2（10%）  
・・・「教室内のFD 懇談会に出席」、「小中高での授業参観や附属学校園との共同研究」
- 未回答： 8（38%）

設問 15 今後取り組もうと考えているFD 活動を選んでください。（複数回答可）

- ①他教員の授業参観： 4（19%）
  - ②学内外のFD 講演会等への参加： 13（62%）
  - ③他大学のFD 活動の視察： 0（0%）
  - ④その他： 2（10%）・・・「教室内のFD 懇談会に出席」、「小中高での授業参観や附属学校園との共同研究」
- 未回答： 4（19%）

設問 16 昨年度も同一科目を担当した方は、前年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

該当するクラスのうち、 回答：6 クラス（順不同）

[農 1] 今年度からディベートによるアクティブラーニングを一部取り入れた。

[教 1] オムニバス形式の授業なので、前の授業担当者と話し合い流れがうまくつながることに留意した。

[教 2] ビデオクリップ作成の課題を「冬休みの出来事」としていたが、本年度は、「宮崎県の紹介」に変更した。

[教 3] 今年度当初は、基本的に昨年通りのシラバスで授業を行っていかうと考えていたが、夏期休業中に、地域の障害者当事者の行政関連団体と協議する機会があり、協同で地域の課題に取り組む実践的な活動に大幅に変更することになった。新しいシラバスを作成し、受講学生にはあらかじめ配布し、シラバスの内容等を確認した上で、授業を開始をした。アクティブラーニングが大幅に増え、地域の問題に取り組む内容の授業となり、学生の関心も高まり、これからの専門教育に取り組む上で大切な知識や技能等を学ぶ機会になった。

[工 1] 昨年まで、グループでの成果発表会を2日間にわたって実施していたが、冗長であるのと1回目と2回目のどちらで発表するかで評価に不公平が生じたため、1日間のみ2会場で実施した。

[工 2] 昨年度は、体験学習の1テーマを担当するとともに、学生のプレゼン発表会に採点委員として出席した。その際、質疑応答の時間において積極的に発言する学生が少なかった。そこで、本年度は、誰でも発言しやすいような雰囲気をつくることに重点をおいて取り組んだ。

設問 17 自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、このFD 活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。

回答： 9 クラス（順不同）

[農 1] 外部講師を含むオムニバス方式の授業であったため、予習のための情報を予め提供することができなかった。講義資料の配付も十分ではなかった。地域の企業を含めて8名の外部講師に学科の教育研究内容に関連する話題を提供してもらったが、受講生の評価は高かった。

〔農 2〕本年度から COC の関係で授業に新しい内容を加える必要があり、従来の研究室配属の調整に使っていた時間を短縮せざるえなかった。そのため、本授業時間外での調整が必要となった。その点について、来年度以降は授業スケジュールの改善が必要であるとする。

〔教 1〕オムニバスに実施したが、卒論に関することや専門の授業で過去に削除された重要分野の補完、特別支援学校の体育授業見学、体育の実技指導に関する内容など、専門への入門編として有益で多彩なメニューを揃えることができたのではないかとされる。

〔教 2〕学生にとって有益と思われる地域の小学生等に対して3回行われた「算数エンタ」の催しに、そのための準備・予行演習等開催側として3回参加させた。各終了後に感想を書かせたが、これからの動機づけがしっかり成されたようだった。また、文章作成し吟味する能力、発表する能力を高めるための試みを、教員採用試験の面接における質問例を題材にして行った。真剣にやっているようだった。

〔教 3〕活動の内容が、半期で終了するものではないため、学生は授業が終了した後も自主的に活動に取り組んでいる。来年度は、前期の授業（大学教育入門セミナー）も活用しながら、より計画的に取り組む必要があると考えている。

〔教 4〕受講生にとって美術と地域・生活のかかわりについて深く考える機会となるよう授業内容を工夫できた。

〔工 1〕・全教員による研究紹介

- ・少人数の研究室配属
- ・県内の企業訪問
- ・卒・修論発表会への参加

を実施した。このため、アンケートの内容が実態と合っていないように感じました。”

〔工 2〕本年度は、物怖じせず積極的に発言する学生が多かったため、発表会に活気があったように感じた。学生にとってコミュニケーションの相手は、まずクラスメートであるので、この授業をきっかけに誰でも発言できるようなクラスの雰囲気をつくることは、コミュニケーション能力の育成において重要であるとする。

〔医 1〕コミュニケーション能力の育成のための教育方法として、平成 27 年度に基礎教育科目重点配分経費を得て、保健医療系大学での「多職種連携教育」に関する FD 研修会を行いました。多職種連携教育は、チーム医療や施設を超えた連携が求められる現在の医療において必要なことであるので、今後教育方法や内容として検討していきたい。

設問 18 FD 活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出ファイル： 専門教育入門セミナーシラバス.docx

**C (問 19～21) : 中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。**

設問 19 授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか？

①はい： 20 (95%)      ②いいえ： 1 (5%)      未回答： 0 (0%)

問19で「はい」の方は問20、21にお答えください。

設問 20 下記のどの点を重視しましたか？（複数回答可）

- ①聞いて理解する： 9 (43%)
- ②読んで理解する： 4 (19%)
- ③自分の考えをまとめて話す： 14 (67%)
- ④自分の考えを文章にまとめる： 16 (76%)
- ⑤討論する： 9 (43%)
- ⑥皆の前でプレゼンテーションする： 15 (71%)
- ⑦その他： 2 (10%)・・・「体験を通して理解する」

「参加したイベントに関して、その内容を簡潔にまとめた報告書を書く」

未回答： 1 (5%)

設問 21 「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら、記述してください。

回答： 16 クラス（順不同）

[農 1] 3年生からの研究室配属に関して、これまで履修してきた講義・実験・実習を踏まえ、「自分が行いたい研究」についてプレゼンテーションを行った。

[農 2] 3回のレポート課題を課した。

[農 3] 毎回、講義内容に関するレポートを課し、講義の後で調べて得られた知識や自分の考えを文章にまとめさせた。

[農 4] レポート課題においては、コミュニケーション能力の育成に関して、(講義を)聞いて理解し、(資料を)読んで理解し、(レポートとして)自分の考えを文章にまとめる、という項目があてはまる。今年度はディベートも取り入れたことで、上記に加えて、自分の考えをまとめて話す、討論する、皆の前でプレゼンテーションする、という要素も加わった。また、各教員の研究室を訪問する企画では、学生達が教員や先輩たちとのコミュニケーションを通じて専門教育や研究現場について学べた。

[農 5] 1)PBL(Problem-based learning)チュートリアルを実施し、グループディスカッションを全3回にわたって行った。

2)低学年であることを考慮し、レポート作成に必要な正しい情報検索と引用方法に関する指導を行った。

3)評論とプレゼンテーションの訓練として、ビブリオバトルを行った。

4)ワールドカフェ方式による自由な討論を経験させた

[教 1] レポートやプレゼン、ディベートにより上記(設問 20)能力の涵養に努めた。

[教 2] 上記、「算数エンタ」で、児童・保護者・市教育委員会の方・同じ数学科のメンバー等と、「コミュニケーション能力の育成」に関して取り組んだと思う。

[教 3] 音楽楽曲の中での各楽器間の会話、対話のような使い方について思いをめぐらし手注意深く聴くこと。

[教 4] 教員・受講生同士のコミュニケーションだけでなく、学外授業によって、県の美術館の職員の方や、地域で活躍するアーティスト方と接する機会を設けた。

[教 5] 添付ファイルの新シラバスにあるとおり・・・宮崎市障害福祉課、宮崎市自立支援協議会と連携し、障害者差別解消法理解促進プロジェクトに参加(グループでの討論、活動準備、附属小中学校での実践、報告:プレゼンテーションとレポート)。

[工 1] いくつかのグループに分け、各グループごとに発表会を実施した。

[工 2] グループでの課題探求および体験実習の成果発表会の開催

[工 3] ポスター(A1)を作成させて発表させた。

[工 4] この講義では、体験学習毎に少人数グループで討論会を行っている。気の知れたクラスメートの集まりであることを考慮して、あまり堅苦しくせずに、誰でも自由に発言できるような雰囲気となるように配慮している。また、この授業では地元企業を訪問して工場見学

## 教員FD 活動レポート（基礎教育）H27 後期 まとめ 専門教育入門セミナー

を行っているが、本年度は訪問先の協力により本学 OB と懇談会を行うことができた。技術者の方と実際にコミュニケーションをとることで、学生には良い刺激になったと思う。

5

[工 5] 5 回分の講義を使って、学科の全教員がそれぞれ 4~5 人の学生を受け持ち(研究室配属)、その中で、テーマを決めて実験や調査を実施した。この中で、討論やプレゼンテーションを課した。

[医 1] 4 人の教員でオムニバスで講義を担当しています。それぞれの目標にそった方法で、ディベート、調べ学習、グループワーク等を取り入れて、講義を展開しています。

### D (問 22~25) : 中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育/共通教育プログラム」についてお尋ねします。

設問 22 授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか？

①はい： 16 (76%)      ②いいえ： 5 (24%)      未回答： 0 (0%)

問 22 で「はい」の方は問 23~25 にお答えください。

設問 23 その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

① 1~5 回： 11 (52%)      ② 6~10 回： 3 (14%)      ③ 11~15 回： 2 (10%)  
未回答： 5 (24%)

設問 24 「地域」のどのような分野を取り上げていますか？（複数回答可）

①歴史・文化： 4 (19%)      ②政治・経済・産業： 11 (52%)      ③自然環境・フィールド体験： 6 (29%)  
④その他： 4 (19%)・・・「教育」、「美術」、「実態調査アンケート」、「医療・福祉（高齢化の現状と地域の課題）」  
未回答： 5 (24%)

設問 25 「地域を教材とした基礎教育/共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。

回答： 12 クラス（順不同）

[農 1] 本科目は学科所属各教員の研究活動および研究室活動を題材に、専門教育の入門を行う科目であるので、「地域を教材とする」ことを目的とする形で地域を教材としているわけではないが、各教員が地域に根差した研究活動を多数行っているため、結果的に地域を教材とした科目となっている。教員あるいは研究室の研究テーマとしての地域題材であるが、研究テーマには自然科学やフィールド体験はもちろん、政治・経済・産業的要素や歴史文化的要素も含まれる。本年度から取り入れたディベート形式の講義（2 コマ分）については、地域に関連深い内容を意識して行っている。ただし「地域=宮崎（県?）」と限定してはいない。

[農 2] 地域を題材にしたり、地域への応用をめざした研究の取り組みについての紹介をした。

[農 3] 県内企業や県の食品開発センターの方に講師を依頼して、地域の産業や地域に関連する研究開発、地域での就職等に関する情報を提供してもらった。学科の教員が担当した回でも地域と関連した研究を紹介した。

[農 4] ・外部講師（宮崎県北諸県農林振興局 鴨田様）を招いて、「畜産行政における倫理-口蹄疫発生時の対応について」というテーマで講演をしていただいた。併せて、下記職場見学旅行の際に口蹄疫メモリアルセンターを訪問し、口蹄疫の発生と復興・防疫などについて学ぶ機会をつくった。

・雲海酒造（綾町）およびミヤチク（都濃町）を見学し、地域における畜産物・食品・飼料の製造について学ぶ機会をつくった。

[農5] フェニックス自然動物園での研修

[教1] 「宮崎県の紹介ビデオ」の作成課題を与えた。学生自身が県内各地で取材した資料（写真、動画等）をもとに、ムービーメーカーを利用し編集を行い、3～5分程度のビデオクリップを作成するというものである。ムービーメーカーは、ダウンロード方法および基本的な操作方法のみを説明し、編集に関しては、自分で操作方法を修得するように指示した。講義最終日に、上映会を開催し、学生同士による評価を行った。

[教2] ・宮崎市自立支援協議会の障害当事者や宮崎市役所福祉課の職員からの講話

- ・障害のある人もない人もともに暮らしやすい宮崎県づくり条例（骨子案）へのパブリックコメントの提出
- ・幼稚園、小中学校への「障害理解の啓発」に関する出前授業の企画、実施
- ・宮崎県民を対象とした「障害者差別解消法」に関する理解推進に関するイベント企画と実施

いずれも活動も、宮崎市、宮崎市障害者自立支援協議会、幼小中学校との連携・協働により行った。

[教3] 西米良でのアートプロジェクト、高鍋美術館、宮崎市アートセンター等の学外での活動を通して、地域と美術のかかわりについて考えさせるよう授業を展開した。

[工1] この授業では、地元企業のご協力のもとで工場見学を実施している。県外出身の学生も多くいるので、宮崎の企業を深く知ることのできる良い機会となっている。

[工2] 宮崎市内の企業見学会（NTT 宮崎）

[工3] 宮崎市内の廃棄物処理施設の見学

[工4] ポスター（A1）を作成させて発表させた。